

MHIにおける保険リスクマネジメントの推進と 諸課題について

第2回 企業のリスクマネジメント高度化に向けた検討会発表用資料

2026/2/10

三菱重工業株式会社

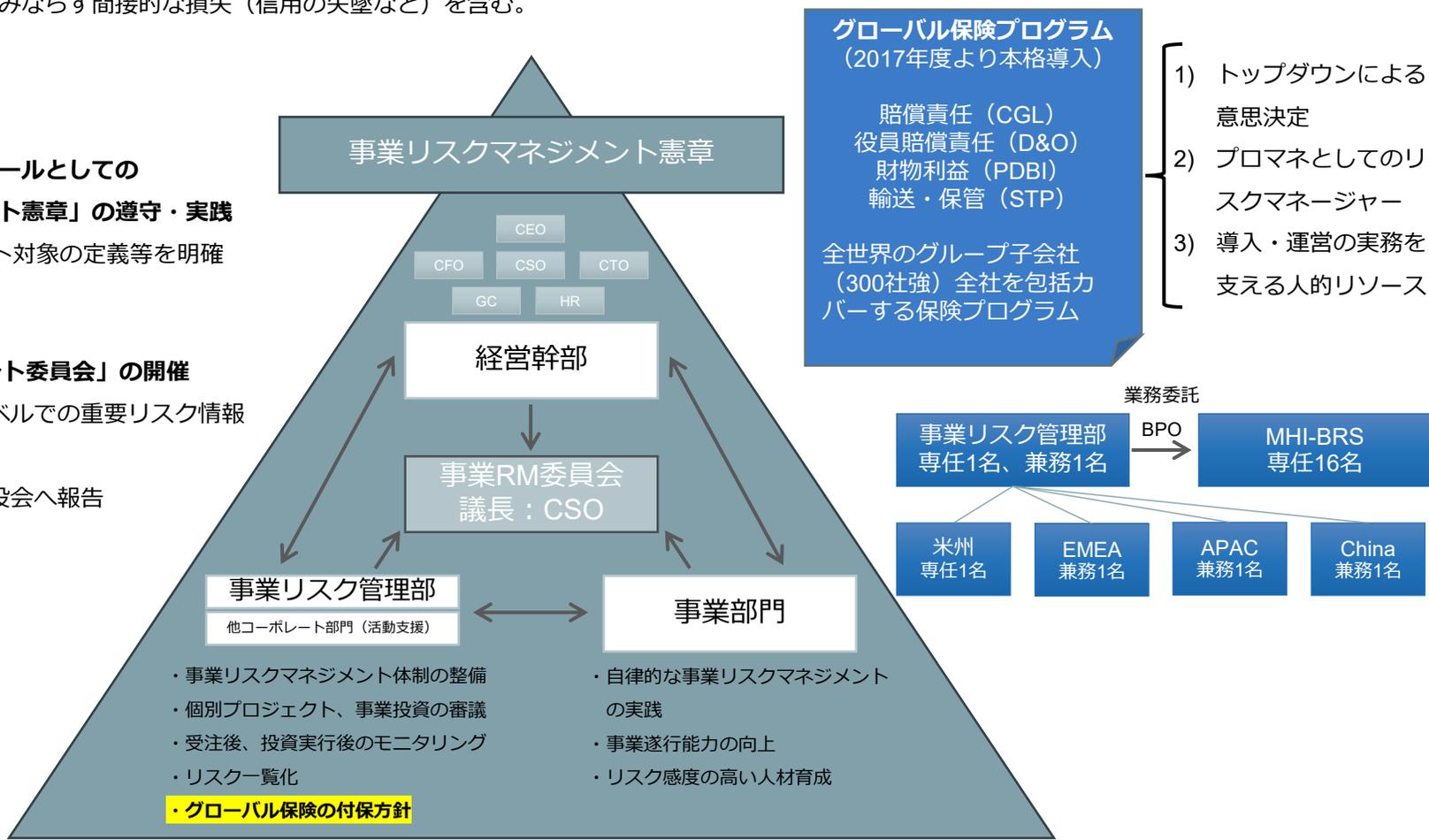
事業支援総括部 事業リスク管理部

- 事業リスク管理部を責任部門として、経営幹部、事業部門、コーポレート部門の三者が一体となって、事業RMに関する活動を推進*、保険RMはその一部を担う

*事業リスクとは、事業活動における組織としての様々な経営判断及びこれに基づく作為（事業活動）や不作為に起因する損失のリスクであり、直接的な経済損失のみならず間接的な損失（信用の失墜など）を含む。

- 1 当社グループの最上位ルールとしての「事業リスクマネジメント憲章」の遵守・実践
 - ・事業リスクマネジメント対象の定義等を明確化し、これを遵守・実践

- 2 「事業リスクマネジメント委員会」の開催
 - ・トップマネジメントレベルでの重要リスク情報の共有や対応方針協議
 - ・特に重要な事案は取締役会へ報告
 - ・2024年度は年4回開催



MHI Report 2024 “リスクマネジメント”より

- 保険付保に当たっては、各種目（各レイヤー）によってその付保意義を明確にし、中長期視点で費用対効果の検証を行う

- 仲介者費用は必要とするサービスを明確化し、項目毎に単価×工数にて見積もり評価、フィーベースに移行

①ファイナンス： 事故発生時のContingent Financeの確保

外部ファイナンス活用に関するコストとして資本コストやWACCをベンチマーク

- 支払保険料 ÷ てん補限度額 = Rate on Line ROLによる適格性評価

②オペレーション： 業務遂行の円滑化（業務に組み込まれる保険）

保険証券や付保証明の発行、損害査定といった保険会社固有業務

- 保険会社の内部費用としての付加保険料、支払保険金に含まれる査定付帯費用水準の検証

③事故削減： 事故情報の集約、事故防止活動への活用

損害防止活動に資する事故情報の提供能力、リスクサーベイなどの追加費用とマーケット評価

- 事故情報集約の正確性・迅速性、内容の充実度、サーベイレポートの有用性

各種目の付保意義 (イメージ)

CGL Primary



CGL Excess



PDBI



Japan Earthquake

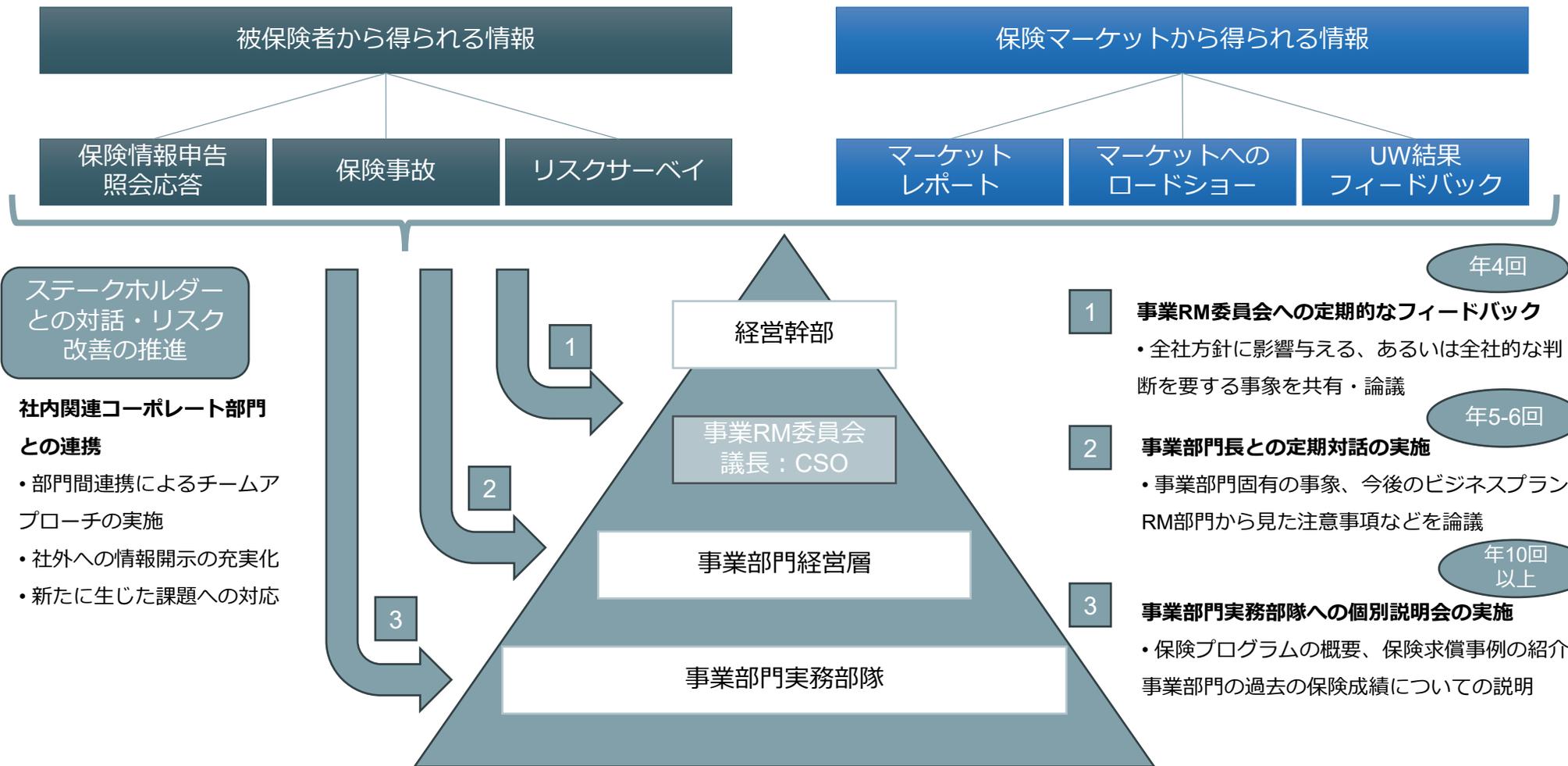


Marine STP



No	項目
1	意思決定に資する情報提供 (マーケット状況、他社ベンチマーク、ベストプラクティス、ワーディング分析)
2	グローバルネットワークの活用
3	【更新業務】 基礎情報の整理、サブミッション作成
4	【更新業務】 更新ターゲット保険料算定
5	【更新業務】 保険マーケットとの折衝
6	【更新業務】 保険発効手続き (バインド、保険料即収、インボイス/証券発行)
7	保険事故に対する対応サポート (入口の相談対応・リスクセンサー)
8	期中の契約異動・管理
9	ロス分析、リスク低減提案
10	付保規制/保険料税調査、レポート
11	Master/Local Policy DIC分析

- 被保険者、保険マーケット双方から得られる情報を生かし、事業リスクマネジメントへのフィードバックを各階層に実施、リスクに対する感度向上とリスク改善に生かす（リスクセンサー機能）



- ▶ 全社RMのうち、事業RMはその中核をなすものであり、さらにその一部である保険RMは事業RM推進の基礎を担う重要な役割である
- ▶ 保険RM推進にあたっては、自社のリスクプロファイルに応じた保険プログラムの設計、運用を通じて、幅広いリスク情報を収集するリスクセンサーとして機能する
- ▶ 企業を取り巻くリスク環境、引受側の保険マーケットは近年急速に変化しており、自然災害や北米賠償などクリティカルリスクの保険調達は年々困難になってきている
- ▶ 日本企業の国際競争力、自助努力によるRM能力向上の観点から、自家保有を余儀なくされるリスクについてのファンディング措置（日本版キャプティブ制度創設等）や、国内で引受審査能力の乏しい特殊保険分野における海外直接付保簡素化など、早期の規制緩和をお願いしたい

提言



2024年5月24日開催、第3回損害保険業の構造的課題と競争のあり方に関する有識者会議資料より再掲

グローバルに事業を展開する大企業にとっては、保険の活用を含む高度なリスクマネジメントの活用が求められている。このため、こうした企業自身の自律的なリスクマネジメントを支援する観点から、例えば、能力のある責任者、一定規模以上の保険料支払を前提に「適格保険契約者（仮称）」として金融庁へ申請、公表を行い、認許を得た者はベネフィットとしての規制緩和（国内手配の難しいリスクについての海外直接付保や、自家保有を余儀なくされるリスクについてのファンディング措置等）を検討してはどうか。

<期待される効果>

キャパシティ調達の難しい保険カバーについての海外保険会社からの直接調達を容易にするとともに、自家保有を余儀なくされるリスクに対する財務的な措置（キャプティブや準備金引当等）を支援する。